

カリキュラム 区分		授業 科目	個人と社会 Individual and Society			担当 教員	佐藤 貴宣 (非常勤)
開講年次	1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	看護学の基盤となる 科目Ⅰ	授業形態	講義
選択必修	選 択	時間数	30時間			使用教室	
授業の目的及びねらい							
<p>「社会」は「個人」のつながりから生み出されていきますが、その一方で、「個人」のつながりは「社会」の中で、それを通じて生み出されていくものです。この講義では、社会学の基礎的な概念や理論を用いて、こうした「個人」と「社会」との複雑な関係を読み解いていこうと思います。ここでの目標は、①社会学の考え方を身につけること、②人々が生きる世界の多様性を理解すること、③現在生じている様々な社会現象を社会学的視点から解明すること、これら3つです。多様な社会的現実を生きる人々の日常を事例としながら、社会学的思考のおもしろさと、この学問が扱う研究対象の幅広さを、具体的に紹介していく予定です。皆さんには、ぜひともこの講義を通じて「常識」とは異なる新たな「社会の見方」を身につけていただきたいと思います。</p>							
授業のキーワード							
自己、アイデンティティ、ジェンダー、純粋な関係性							
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画						
第1回	イントロダクション：二つの社会イメージ						
第2回	「私」は自己をめぐる語りを通じて生成する：自己物語論						
第3回	レッテル貼りがアイデンティティを作る：ラベリングと社会問題の構築						
第4回	なぜ人は認められたいのか：アイデンティティゲームと存在証明						
第5回	私はそんな人間じゃない：スティグマとパッシング						
第6回	ウソからでたマコト：予言の自己成就						
第7回	女らしさと男らしさ：ジェンダー実践とセクシュアリティ						
第8回	「こころ」が商品になるとき：感情の社会学						
第9回	誰が成功を手にするのか：メリトクラシーと文化的再生産						
第10回	犯罪は社会の役に立っている：動機の語彙と犯罪の潜在的機能						
第11回	なぜエレベーターに他人と乗り合わせると気まずいのか：人格崇拝と相互行為儀礼						
第12回	恋愛の社会学：ロマンチック・ラブからコンフルエント・ラブへ						
第13回	ファストフードの功罪：マクドナルド化する社会の意図せざる帰結						
第14回	「生きられた経験」と出会う：質的調査と多元的リアリティー						
第15回	まとめ：個人モデルから社会モデルへ						
テキスト	プリントを配布。						
参考文献	講義中に提示します。						
成績評価の方法と基準	試験(70%)と授業中に実施するミニレポート(30%)で総合的に評価。						
教員から学生へのメッセージ	社会学の魅力のひとつは「自分の頭で考えることができる」という点にあります。この授業では、できるだけ多くの身近な例を出しながら解説をおこなうので、どうか「自分もいっしょになって考える」という姿勢で参加してください。						